

日本労働年鑑 第58集 1988年版  
The Labour Year Book of Japan 1988

第四部 労働組合と政治・社会運動

III 政党の動向

6 日本共産党

3 大会・中央委員会

(2) 第一八回党大会

大会経過

第一八回党大会は、八七年十一月二五～二九日、熱海市の伊豆学習会館で、九九九人の代議員（欠席の一人は急病で交代が未着）と八〇人の評議員が出席して開催された（詳しくは『前衛』八八年一月臨時増刊号を参照）。

大会第一日目は、宮本議長のあいさつではじまり、大会幹部団（二七人）選出など大会の機構・人事・議事日程の承認のあと、宮本議長の冒頭発言が行われた。大会に出席した二六の外国党・組織代表の紹介のあと、中村正男日本民主青年同盟中央委員長、上田誠吉革新懇代表世話人、引間博愛統一労組懇代表委員など四人があいさつした。午後は、村上委員長代行の「中央委員会の報告」のあと討議がはじまり、四人の代議員が発言した。

大会第二日目は、非核の政府を求める会の渡辺洋三常任世話人など二人のあいさつのあと、討議が続行され、一〇人の代議員と一人の評議員が発言した。午後、内田昌伯全国商団連会長など三人のあいさつのあと、討議がつづけられ、一八人の代議員が発言した。

第三日目は、新たに到着した二つの外国党・組織の代表の紹介のあと、山口勇子原水協筆頭代表理事など四人のあいさつがあり、午前中は九人の代議員と一人の評議員が、午後は一二人の代議員が発言した。この後、桑原常任幹部会委員が規約一部改正についての報告を行い、これについては、二人の代議員が発言した。

第四日目は、本会議が休会とされ、役員選考委員会などが開かれた。

第五日目は、村上委員長代行の結語のあと採決が行われ、宮本議長の冒頭発言、中央委員会報告と結語が全員一致で採択された。つづいて、規約の一部改正案、報告、結語も全員一致で採択された。中央委員一八九人、准中央委員一六人大計二〇五人の選出のあと、別会場で第一回中央委員会総会が開かれ、宮本議長・不破副議長・村上委員長ら中央役員が選出された。

宮本議長・村上委員長代行のあいさつ

大会初日、冒頭発言に立った宮本議長は、「資本主義社会からの解放をめざす共産主義者は、自国の未来についてはもちろん、世界の新しい前進をかちとる立場から、現在の社会主義国にどういふ基本的な態度をとるのかということが問われています」と強調しつつ、主として国際問題、とくに中

ソ両国の分析に多くの時間をさいた。このなかで宮本議長は、中国共産党との交渉の経過と会談の打ち切り、一部社会主義国における覇権主義的干渉の誤り、ペレストロイカにたいする好意と期待、反核国際統一戦線の共同と分裂勢力の識別、一部社会主義国の党による日本の政府・反共野党の美化への批判などについてふれ、ペレストロイカが「科学的社会主義の精神を今日の時代に豊かに発揮するということであるならば、私がここで強調した国際問題でのさまざまなゆがみにたいして、躊躇なく勇氣ある光が当てられるべきであると期待しても、不自然ではないでしょう」と指摘した。

約二時間半におよぶ村上委員長代行の中央委員会報告は、国際・国内情勢と党活動の各分野にわたって行われた。国際情勢の面では、株価暴落と円高問題、INF(中距離核戦力)全廃条約調印の意義と限界、反核・平和運動の重要性、民族自決権擁護の位置づけ、反核国際統一戦線具体化の展望などを明らかにし、国内情勢の面では、竹下新政権の危険性、社会党右傾化の実態と批判の重要性、全民労連(「連合」)の本質と階級的ナショナル・センターの重要性、大型間接税反対などの大衆闘争の教訓等について詳細に論じた。また党勢拡大の面では、その到達点の積極的意義を明らかにしつつ、それが依然として立ち遅れた分野であることを強調し、その克服に向けて思想建設・学習教育が特別に重視しなければならない点だと力説した。

#### 副議長職の新設など、規約を一部改正

第一八回大会での規約の改正は、二点について行われた。

第一は、集団指導体制の運営上必要な場合、中央委員会議長を補佐する副議長一名を選出することができるようにしたこと(第三一条の一部改正)、第二は、都道府県党会議に準じた役割をはたす都道府県協議会を新設したこと(第四五条)の二点である。

#### 外国党・組織代表の参加

第一八回大会に代表を送った外国党・組織は最終的に三一組織にのぼった。大会第三日目の一月二七日に七都市で歓迎集会が開催されたが、その都市と参加した党・組織の名称はつぎのとおりである。

(1) 埼玉・蕨(イエメン社会主義党、オーストラリア共産党、スウェーデン左翼党(共産党)、ブルガリア共産党)、

(2) 東京・荒川(アルジェリア民族解放戦線党、サンディニスタ民族解放戦線、ノルウェー社会主義左翼党、ハンガリー社会主義労働者党、アンゴラ解放人民運動・労働党)、

(3) 横浜(コンゴ労働党、デンマーク社会主義人民党、パレスチナ解放機構、フランス共産党、ユーゴスラビア共産主義者同盟)、

(4) 名古屋(ギニア・カボベルデ独立アフリカ党、スペイン共産党、ドイツ社会主義統一党、ブラジル共産党、カンボジア人民革命党)、

(5) 京都(イギリス共産党、イタリア共産党、ソ連共産党、アフリカ民族会議)、

(6) 東大阪(ポリサリオ戦線、チェコスロバキア共産党、フィンランド共産党、ベトナム共産党)、

(7) 神戸(インド共産党(マルクス主義)、オランダ共産党、キューバ共産党、ルーマニア共産党)

#### 役員——副議長新設、委員長・女性副委員長新任

第一八回党大会に際して、第一回中央委員会総会で選出された中央委員会議長、副議長、幹部会委員長、書記局長、幹部会副委員長、幹部会委員および幹部会で選出された常任幹部会委員、准常任幹部会委員はつぎのとおりである(○印は新任)。なお、今回新たに中央委員会副議長のポ

ストが新設され、これまで委員長であった不破哲三氏が就任し、後任の委員長には村上弘副委員長(委員長代行)が昇格した。また、新たに小笠原貞子氏が女性としては初めて副委員長に就任した。幹部会委員の数は五九人で、大会前より六人増えた。

▽中央委員会議長＝宮本顕治、▽中央委員会副議長＝○不破哲三、▽幹部会委員長＝○村上弘、▽書記局長＝金子満弘、▽幹部会副委員長＝上田耕一郎・戎谷春松・○小笠原貞子・瀬長亀次郎・高原晋一、▽常任幹部会委員＝宮本顕治・不破哲三・村上弘・金子満広・上田耕一郎・戎谷春松・小笠原貞子・瀬長亀次郎・高原晋一・緋田吉郎・市川正一・宇野三郎・桑原信夫・小島優・小林栄三・○白石芳朗・立木洋・西井教雄・浜武司・宮本忠人・吉岡吉典、▽准常任幹部会委員＝○荒堀広・沢田肇・○定免政雄・○田中弘、▽幹部会委員＝緋田吉郎・阿部泰・荒堀広・市川正一・上田耕一郎・上田均・宇野三郎・○浦田宣昭・戎谷春松・大村進次郎・小笠原貞子・諸方靖夫・金子満広・河邑重光・聴濤弘・木島宏・木村昭四郎・工藤晃・桑原信夫・○小泉初恵・小島優・小林栄三・紺野純一・佐々木季男・佐々木一司・佐々木陸海・沢田肇・定免政雄・白石芳朗・○菅生厚・瀬長亀次郎・高原晋一・立木洋・田中昭治・田中弘・津田孝・寺前巖・中島武敏・中村宣夫・新原昭治・西井教雄・西沢舜一・○根保幸栄・浜武司・浜野忠夫・林百郎・藤本美代・古堅実吉・不破哲三・○堀井孝生・○増子典男・松本善明・宮本顕治・宮本忠人・村上弘・山手叡・山中郁子・吉岡吉典・若林暹

日本労働年鑑 第58集 1988年版

発行 1988年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

\*\*\*\*年\*\*月\*\*日公開開始

---

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1988年版(第58集)【目次】 次のページ → ■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---